

[基本教育科目/表現力の養成]

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
はじめての中国語会話	NLA22_003	選択必修	1	1.2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
金 信敬	教員控室	sk・kin	授業終了後オンラインによる		
授業の目的・概要	「中国語」の実践的会話力を身につけ、コミュニケーションに必要な最も基本的な表現ができることを目的とする。本科目は、「発音」、「会話本文」、「ポイント」、「トレーニング」、「リスニング」から構成される。中国人と知り合ったり、一人で中国へ行ったりした時に、基本的な対応ができるように会話を習得する。授業は同時双方向型を通して理解し、その後、フィードバック等を行うことで学習内容に理解を深める。				
学習上の助言	中国語会話は、授業に積極取り組むことが大事である。また、日常生活で会話を生かす努力をする。また同時双方向型授業においては、積極的に参加、質問することが重要となる。				
教科書	1冊目の中国語 会話クラス 著：劉穎・喜多山祥子・松田かの子 出版社：白水社（2019年）				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	簡単な挨拶から、人とのコミュニケーションを積極的に取る。	HSU(1)			
②	中国語会話を身につけ、漢語圏の人々と幅広い交流ができる。	HSU(2)			
③	学んだ日本の先進的医療技術を、漢語圏の人々に紹介や提供できる。	HSU(3)			
④	来日した漢語圏の人々に、簡単な道案内などができる。	HSU(4)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間（時間）		
1	オンライン授業の流れを説明。発音（単母音、声調、子音、複母音）、自己紹介や簡単な挨拶を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	0.5	
2	第一課 本文 人称代名詞、動詞「是」、否定を現す「不」、疑問を現す「嗎」を学ぶ。簡単な挨拶を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	1	
3	第二課 本文 指示代名詞、形容詞述語文、疑問視「怎么样」、「的」を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	1	
4	第三課 本文 場所代名詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文、時を現すことば位置 を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	1	
5	第四課 本文 助動詞「想」、選択疑問文、副詞「也」、動詞の重ね型、語気助詞「吧」を学ぶ。小テスト	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	1	
6	第五課 本文 数詞、量詞の使い方、反復疑問文 を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	1	
7	第六課 本文 動詞「有」、動詞「在」、前置詞「離」を学ぶ。前半の復習	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	2	
8	第七課 本文 連動文、「什麼」+名詞、完了の「了」、疑問詞「怎麼」を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	1	
9	第八課 本文 変化を現す「了」、動詞「有」、前置詞「在」 を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	1	
10	第九課 本文 助動詞「可以」「会」「能」、動詞「喜歡」、前置詞「給」を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	1	
11	第十課 本文 時刻の言い方、経験を現す「過」、動作の回数を現す言い方を学ぶ。小テスト	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	1	
12	第十一課 本文 主述述語文、「有点儿」、「是～的」、比較の表現 を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	1	
13	第十二課 本文 結果補語、「从～到・・・」、二つの目的を持つ動詞 を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	1	
14	第十三課 本文 「是」の省略、使役動詞「讓」「叫」、番号の言い方 を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） 次回内容を調べる（予習）	1	
15	今まで学んできた内容を駆使して、中国語のみで会話を行う練習をする。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認（復習） テストの準備	0.5	
試	定期試験				

[基本教育科目/表現力の養成]

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	40	0	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	10	0	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	30	30
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	試験は簡単な挨拶から、自己紹介、道の案内、日常生活に必要な基本的な会話を設定して行う。授業中の小テストと定期試験（70%）				小テストと定期試験結果について解説や助言を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
その他	①	✓	同時双方向型授業における授業への取り込みや受講態度により評価する。中国語の会話の学習は、まず授業に積極的取り組みが大事である。間違っても、自信がなくても、口を開けて話すことが会話上達の秘訣である。授業中には、できるだけ中国語を駆使して努力する姿勢を評価する。(30%)				学生の授業取り組みを評価しながら、指摘や個別の助言などを行う。
	②						
	③						
	④						
備 考							
中国語会話の授業ですので、授業に関する以外の会話は禁ずる。授業だけではなく、普段の生活の中でも中国語でのあいさつや日常会話を使うように努める。							
・ Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨する。							
・ Teams を使って同時双方向型授業を行う。課題ダウンロードや動画視聴などがあるので、通信容量制限がある場合は通信量に十分注意してください。							
・ 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラパスの変更があり得る。							